

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス リオスマイル		
○保護者評価実施期間	R6年11月1日		～ R6年12月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R6年11月1日		～ R6年12月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年1月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい特性や子ども一人ひとりの状況を理解し、それぞれの個性に応じた支援	定期的に職員間でミーティングを行う以外に、日々職員同士が、利用者様の様子や状況など些細なことでも情報共有をし把握するようにしている。色んな視点から活動内容を用意することで、その利用者様に合った支援方法が見つかるようにしている。また学校等との関係機関との情報共有も大切にしている。	学校や相談支援事業所等の関係機関とは必要に応じて連携し、情報共有を行っているが定期的な状況の確認も含め連絡を取り合うようにしている。
2	定期的な面談と情報共有	保護者様との定期的な面談だけでなく、電話等での相談も受けており、支援計画の面談時以外でも面談を行ったりしている。必要に応じて、学校等に対する情報提供や会議を行うこともある。	デイでの支援状況とそれに対する利用者様の様子を連絡帳でよりわかりやすく伝えていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信	・各マニュアルの作成は行っているが、職員以外の子どもや保護者様への情報発信が弱い。 ・HPのブログによる利用者様の様子などを発信しているが、あまり見ていただけていない。	・各マニュアルの作成や見直し等、HPで公表を行い周知できるようにしていく。 ・ブログ等については、定期的に発信していることを都度連絡帳で伝える。
2	保護者同士や地域との交流の機会	・建物の立地条件上、地域住民の方との交流は難しい。(不審者侵入のおそれもあるため、招待は難しい。) ・保護者様同士の交流によるデメリットを考えている。(比較や競争が生まれたり、意見の不一致から関係が悪化したりする可能性がある)	・比較的近隣のボランティア活動等で地域との交流を図ることができる可能性はある。 ・保護者様からの強いご要望が集まることがあれば、検討していきたい。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス リオスマイル		公表日		R7 年 1月 8日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		御手洗いまでの道をスロープにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		必要に応じて、クールダウンのために多目的ルームや相談室等を使用できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		定期的な研修のほか、講習会などの案内をまわし自由に受講ができるようにしている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		HPIにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		順次新しい個別支援計画様式に従い計画を見直し、改善している。計画に示すもの以外でもその都度保護者様からのご要望やご相談への対応もしております。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		子どもの状況に合わせ、ステップアップできるような日々の活動内容を考えている。また固定することで身につくスキルもあるため、繰り返しが必要なものについては固定しているものもある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	4			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		トラブル発生時など、必要に応じて学校とは連絡を取り合い、情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		現在、就学前児童はいない。中学校や特別支援学校（高等部）との連携を通し、支援を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		その都度、必要があれば情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		名古屋市障害児通所支援事業所連絡会や中区基幹センターと連携し、研修等にもできる限り参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		同法人の児童発達支援事業所の交流や市立図書館の利用などは行っている。	事業所が都市部のビル一角にあり、周辺にはマンションが立ち並び立地条件もあるため交流は難しいが今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		可能な限り参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳でその日の様子を伝えたり、子どもの状況や課題について相互に連絡を取り合っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			今後検討していく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に丁寧に説明するよう心掛けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		約6ヶ月ごとに面談で支援状況やデイでの様子など情報共有を行い、計画の同意を頂戴している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4	毎年利用児童の卒業時に保護者同士が関わりをもてる機会を設けている。	現状はできていないが、今後開催できるといと考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		定期的にHPのブログにて子どもたちの様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		名札の着用があるため、今後もHP掲載の際には顔以外の情報にも配慮していきたい。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		事業所が都市部のビル一角にあり、周辺にはマンションが立ち並び立地条件もあるため実施は難しいが、今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		各マニュアルを作成し、定期的なミーティングや研修を行い、職員内で周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		定期的な研修・訓練を行い、改善点など見直しを行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		てんかん発作など、特に対応が必要なことに関しては、すぐに動けるよう対応手順を見える所に掲示し、こどもの様子の把握、情報共有をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		アレルギーの把握はしており、おやつや昼食は配慮している。現在重篤なアレルギー該当者はいないが、必要に応じて対応していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		緊急連絡先や医療情報等についてはまとめており、緊急時にいつでも持ち出せるように保管している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会を中心に随時研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		現状身体拘束を行う可能性がある利用者様がいらっしゃるため、支援計画には記載していない。		